

## 略歴書（会長候補）

### 安田 進（やすだすすむ）

東京電機大学理工学部 教授、工学博士、技術士（総合技術監理部門，建設部門）



【専攻分野】地震地盤工学

#### 【本会活動】

理事（事業・企画担当）：2001年1月～2003年5月

副会長（総務担当）：2005年6月～2007年5月

性能規定型設計法に関する研究委員会委員

：2003年4月～2005年3月

#### 【略歴】

1970年 九州工業大学開発土木工学科卒業

1972年 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程終了

1975年 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻博士課程修了

1975年 基礎地盤コンサルタンツ(株)入社

1986年 九州工業大学工学部 助教授

1990年 国際協力事業団よりチリ国へ専門家として派遣（構造物耐震設計研究協力）

1994年 東京電機大学理工学部 教授 現在に至る

#### 【受賞】

土木学会論文賞（1987年）

地盤工学会研究業績賞（2011年）

国土交通大臣賞産学官連携功労者表彰（2011年）

#### 【委員等】

- ・（社）地盤工学会 理事（1998年5月～2001年5月）
- ・日本学術会議 メカニクス・構造研究連絡委員会委員（2000年10月～2003年10月）
- ・運輸省港湾局 港湾に係る民間技術の評価委員会 委員（2000年6月～2000年10月）
- ・国際地盤工学会 ATC10 “Urban Geo-informatics” 委員長（2001年～2005年）
- ・土木学会 地盤工学委員会 委員長（2003年5月～2005年5月）
- ・（社）地盤工学会 副会長（2006年5月～2008年5月）
- ・国際地盤工学会 ATC3 “Geotechnology for Natural Hazards” 委員長（2005年～2009年）
- ・東京都 豊洲新市場予定地の土壌汚染対策工事に関する技術会議委員（2008年8月～）
- ・国土交通省 関東地方整備局河川堤防復旧技術検討会 委員（2011年4月～2011年10月）
- ・千葉県 東日本大震災千葉県検討専門委員会 委員（2011年6月～2012年3月）
- ・経済産業省 総合資源エネルギー調査会臨時委員（2011年8月～2012年8月）
- ・東京都 防災会議専門委員（地震部会）（2011年9月～2012年3月）
- ・（社）下水道協会 下水道地震・津波対策技術検討委員会 委員（2011年4月～2012年3月）
- ・経済産業省 原子力安全・保安院 中央鉱山保安協議会専門委員（2012年5月～）
- ・（公社）土木学会 理事（2012年6月～）

#### 【著書および主要論文】

- ・ 共著：Case Histories of Post-Liquefaction Remediation(4.1, 7.1, A3 分担執筆), Technical Committee for Earthquake Geotechnical Engineering, TC4, of the International Society of Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, 2001.
- ・ 共著：Recent Advances in Earthquake Geotechnical Engineering and Microzonation (第4章分担執筆), Kluwer Academic Publishes, 2004.
- ・ 共著：性能規定型耐震設計 (2.3 および 3.3 分担執筆), 日本地震工学会, 2006.
- ・ 共著：Yasuda, S.: Evaluation of liquefaction-induced deformation of structures, *Recent Advances in Earthquake Geotechnical Engineering and Microzonation (Edited by A. Ansal)*, Kluwer Academic Publishes, Ch.6, pp.199-230, 2004.
- ・ Yasuda, S. and Ogasawara, M. : Studies on several countermeasures against liquefaction-induced flow and an application of a measure to existing bridges in Tokyo, *Journal of Japan Association for Earthquake Engineering*, Vol.4, No.3, pp.370-376, 2004.
- ・ 安田進：鳥取県西部地震による団地の被害, 日本建築学会総合論文誌, 第2号, pp.45-46, 2004.
- ・ Yasuda, S., Morimoto, I., Kiku, H. and Tanaka, T.: Reconnaissance report on the damage caused by three Japanese earthquakes in 2003, *Proc. of the 3<sup>rd</sup> International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering and 11<sup>th</sup> International Conference on Soil Dynamics & Earthquake Engineering*, Lecture, Vol.1, pp.14-21, 2004.
- ・ Yasuda, S. and Kiku, H.: Uplift of sewage manholes and pipes during the 2004 Niigataken-chuetsu earthquake, *Soils and Foundations*, Vol. 46, No. 6, pp. 885-894, 2006.
- ・ 安田進：災害調査を通じた社会貢献, 土と基礎, Vol. 55, No. 1, pp. 22-24, 2007.
- ・ Yasuda, S. and Ariyama, Y.: Study on the mechanism of the liquefaction-induced differential settlement of timber houses occurred during the 2000 Totoriken-seibu earthquake, *Proc. of 14th World Conference on Earthquake Engineering*, Paper No.S26-021, 2008.
- ・ Yasuda, S.: Damage to Structures due to Soil Liquefaction, *Proc. of the 11th IAEG Congress*, Keynote Lecture, pp.15-52, 2010.
- ・ 安田進：(総説)巨大地震による液状化被害と予測手法の課題, 地盤工学会誌, Vol.58, No.11, pp.1-5, 2010.
- ・ 安田進・小長井一男・菅野高弘・岡村未対・飛田哲男：2010年チリ Maule 地震による被害に対する災害緊急調査団報告, 地盤工学会誌, vol.58, No.4, pp.32-33, 2010.
- ・ Yasuda, S. and Tanaka, T.: Geotechnical aspects of recent Japan earthquakes, *Proc. of the 5<sup>th</sup> International Conference on Recent Advances in Geotechnical Earthquake Engineering*, Paper No.EQ2, 2010.
- ・ 安田進・Cubrinovski Misko・時松孝次・Orense Rolando・渦岡良介・清田隆・細野康代・山田卓：2011年ニュージーランド 2011 Christchurch 地震による被害に対する災害緊急調査団報告, 地盤工学会誌, Vol.59, pp.48-49, 2011.
- ・ Yasuda, S., Nagase, H., Tanoue, Y. : Microzonation for seismic geotechnical hazards and actual damage during the 2005 Fukuoka-ken Seiho-oki earthquake, *Soils and Foundations*, Vol. 51, No.2, pp. 215-226, 2011.
- ・ 安田進・原田健二・石川敬祐：東北地方太平洋沖地震による千葉県の被害、地盤工学ジャーナル、Vol.7, No.1, pp.103-115, 2012.

#### 【所信】

東日本大震災からの復興や、来るべき南海トラフの地震や首都直下地震などに対して、(社)日本地震工学会の社会的使命はますます増してきています。これに応じて、積極的に国内外に発信していくことがまず大切かと思えます。また、種々の分野の方々が集まってこの学会を設立した経緯にあるように、地震災害軽減を共通の目標とし、異なる分野の会員の方々がさらなる意見交換・研究・技術開発を行い、地震工学を進展させていく必要があると思えます。